

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	環境を整え、落ち着いた暮らしの中で理念の実践につとめている	玄関ホールに理念を掲げ来訪者にも分かりやすく示している。毎月の職員会議では理念の唱和もしている。朝のミーティングや毎月の職員会議等では支援内容が理念に沿ったものであるかを話し合い、実践につなげている。職員はホームが目指すサービスのあり方を理解し、自らの言葉で具体的に語る事ができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月27日、ご近所の皆さんとお茶のみ会をしている。その中にボランティアのみなさんなども招く。運営推進会議の皆さんにも交流の場を作ってもらっている。	入居者と住民との交流の場としてお茶飲みの会を毎月ホーム内で行っている。時にはカヤの平高原へバスハイクに出かけ自然の中でお茶のみ交流している。近くにある保育園の園児とは散歩の時や運動会でふれあい、「おじいちゃん」、「おばあちゃん」と声をかけられたり握手しながら万遍の笑みで応えている。ボランティアの歌の会がレッスン後に立ち寄り、歌を披露している。今年度は村主催の「協働のむらづくり事業」に登録し、身近で活かせる「ボランティア養成講座」を開き、住民9名が受講し修了している。事業所は積極的に地域との関係作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんとの交流の機会を作ることにつとめる。ボランティアの力をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所への協力的な意見を聞くことができた。	入居者代表、家族代表、隣組代表、民生委員、駐在所警察官、消防団代表、包括支援センター職員等をメンバーに2ヶ月毎に開催している。ホームの活動や行事等を報告し、質問を受けたり、第三者的な率直な意見や助言をいただいている。会議で得られた意見等はサービス向上に活かしている。前年度は定期的開催できなかったが今年度は予定通り開催できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や年次総会などの出席をお願いする中で協力していただいている。	役場は歩いて数分の場所にあり担当窓口を直接訪ねてホームの様子を伝えたり相談している。村職員も時々歩いて訪問し情報や資料などを届けたりホームの様子を確認している。「ボランティア養成講座」に関して主催の村から「住民の介護技術の養成に関わることはありがたく、期待している」との評価をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日のミーティングにおいてケアの実情を再確認している。	身体拘束や入居者の行動を制限する具体的な行為等に関して勉強会で学び認識している。車椅子の入居者には椅子やソファに移動し居心地よく過ごせるよう支援している。夜間帯に衣類を身につけるのを拒む入居者について話し合い、拘束に関する家族への説明書を作成し家族に了承を得ている。また、経過観察及び経過記録も作成している。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングにおいてケアの実情を再確認している。職員会や外部での研修会に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、事業所内で復命している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族への説明を行い理解、納得をさせていただいていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や折々にでかけたときなどに要望などお聞きしている。	「ふきんと便り」を家族に送り、ホームでの生活を報告している。行事外出の写真をホーム内に掲示し報告も兼ねている。家族会を毎月開催し、家族が参加しやすいように行事に合わせたり、お茶や食事を用意している。また、年2回は日帰り温泉旅行を組み入れている。家族も家族会や面会時に何かあれば気軽に職員に話をしている。入居者が散歩やお茶の時間などに「あそこに行ってみたい」、「あれを食べたい」などと漏らす言葉を大切にサービスや運営に活かしている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は大いに聞くようにしている。	毎月の職員会議では理念を唱和してから会議をはじめている。毎回和気藹々とした雰囲気の中で思い思いに意見や提案を伝えている。入居者の情報や行事のこと、運営に関することなど何でも相談しながら皆で決めている。管理者による面接は年度末に行い、仕事のこと、健康や家族のことなどを聞いたり相談している。法人の理事や管理者そして職員がお互いを信頼し合い入居者の生活を支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	就業環境全てに渡って整備する方向で努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多く作ること、内部での研修会の実施をしてきた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や、交流会の実施をしてサービスの向上に取り組むように努めている。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して暮らしてもらえるよう職員全員なごやかな対応に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の様子を頻繁に伝えることに努めながら、職員全員との交流も兼ね信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝や夕方の挨拶を大切に考え、はっきりと挨拶するように努めている。共に過ごせる時間を作る努力をして、話題を投げかけたりそばに寄り添うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問の機会を多く作るようにしている。また本人の様子は細かく手紙でも報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の家族会には馴染みの人たちの参加も呼びかけている。	入居者一人ひとりが張り合いのある日々を過ごすことが出来るように親戚、近所の人や知人、同級生等が訪問しやすいように家族会への参加を呼びかけるなど心がけている。家族からは気軽に訪ねて来れる雰囲気があると喜ばれている。行事外出として入居者が出かけたことのある場所を念頭に入れながら思い出をめぐる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないような仲間作りに心がけている。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば応ずる体制がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の掘り起こしのため思い出話や話題の提供をすることでその人の望んでいるであろう意向や思いを探っている。	入居者一人ひとりに合った分かり易い声がけをしており、入居者の殆どが自分の気持ちを言葉や仕草で伝えることができる。職員は毎日の関わりの中で一人ひとりと話をしながら思いや意向の把握に努めている。得られた情報は日誌の特記事項に記録し、会議等でも報告し共有している。朝のミーティングで入居者の意向が伝えられ、急遽外出することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供を詳しく書いて提出していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心と身体の様子を、一日の動きの中でチェックしている。朝のバイタル、レクリエーション、筋トレ、食事時、入浴時等はチェックしやすい場面としてきめ細かに観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会で一人一人について検討したり面会の家族と、どのような希望があるかお聞きしている。	入居者、家族の生活に対する意向を基に職員と話し合い、入居者一人ひとりが活き活きと暮せるための介護計画を作成している。毎月遂行状況を確認しながら評価し、6ヶ月で見直しを行っている。意向や本人の状態が変わった時には介護計画を変更し現状に合うものに作り変えている。家族へ説明し確認もいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝のミーティングで気づいた事を話し合い、より良い方向をみつける又必要なことは掲示板にて職員に徹底するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応している。 看護師の雇用介護士など急な対応も実施した。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵手紙の会、童謡を歌う会、ご近所の皆さんなどとの交流をとり入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師には、日々の健康状態を知らせ適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の意向に沿ったかかりつけ医となっている。協力医療機関への通院や受診の付き添いは職員が行うが、それ以外の場合は基本的には家族にお願いしている。協力医院、協力歯科医院からの往診が可能である。入居者の状態に異常があったり急変した場合などに関しては状態に応じて医療機関と連携し、適切な医療、治療が受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないので、かかり付けの医師と常に連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者と情報交換を蜜にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師と事業所が終末期のあり方についてはなしい支援を見送った	契約時に本人、家族に重度化した場合や終末期の対応についてのホームの方針を説明している。ホームでの終末支援を望まれた家族には医師、職員との話し合いを行い、看取り介護についての同意書を交わしている。昨年5月と9月にホームでの看取り支援が行われている。家族は数日間付き添うことができ、本人は幸せだったとの感謝の言葉を寄せている。家族が安心して納得できる最期を迎えられるようにと職員は方針を共有し心をこめた支援に当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	時に応じて訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施している。	5月と11月に防災訓練を行っている。5月には消防署の協力和住民の参加を得ながら夜間想定での防災訓練を行い、11月は消防署に防災訓練等通知書を提出し、ホーム独自で行っている。毎月、ミニ訓練も実施しており、入居者は防火頭巾をかぶり落ち着いて避難訓練に参加しており運営推進会議でも報告がされている。夜勤者が実際の場面では通報、消火、避難誘導を一人で行うことが難しいことをホーム側から相談をかけた結果、駐在所から「人命優先で考えることが大切」との助言があり職員に徹底した。今年は大雪で避難経路確保の除雪を理事長が中心になり日に何度も行ったと伺い雪国ならではの大変さを痛感し	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心がけている。	入居者一人ひとりの個性を大切に、ありのままを受け入れながら職員は日々、人格を尊重したケアを行っている。排泄支援や入浴時には特にプライバシーやプライドを損ねない対応に心がけている。入居者と職員が笑顔を見せ合う光景が印象的であった。馴れ合いで好ましくない対応や言動を防ぐため会議やミーティングで人格の尊重等を伝え意識づけや注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あわてず、時間をかけた介護の中で利用者の思いを表せるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の気持ちを大切に介護に心がけるようにしているが、ほとんど一日のスケジュールに添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整髪、口腔衛生、時々の散髪、髭剃り爪きりなどに心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行例会などいっしょに作って楽しむことに心がけている。	入居者が楽しく食事できるように食事の準備、包丁を使つての調理、下ごしらえや後片付けなどに参加していただいている。テーブルに野菜が置いてあれば入居者が進んで作業をはじめるとも伺った。職員が「〇〇さんありがとう」と声をかけ、労をねぎらっている。献立は行事食、旬の料理などを組み入れながら職員が作成している。入居者の誕生日には手作りケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価、1480カロリー、水分補給1000mlを確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは毎食後、入れ歯の減菌(週3回)を励行している。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を旨としている。自立3名 介助3名	自立の入居者はリハビリパンツを使い、全て自分でやっている。介助が必要な入居者には布パンツとリハビリパンツを見せて自分で選んでもらい、それを使っている。状態によってはベッド上でリハビリパンツを交換する方もいる。日中はトイレでの排泄を支援しているが夜間は入居前と同様にポータブルトイレを使う方もいる。トイレは立位や座位が安全に出来るよう手すりなどに工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材を豊富に使い、料理に工夫をこらし、運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴を楽しんでもらっている。夕方の時間に統一している。	毎日3名の方が入浴している。入浴日や入浴時間は決まっているが入居者の希望を聞きながらの入浴支援が行われている。湯船に入りながら「ありがとう、気持ちいい」、「いいお風呂だった」と喜んでもらえている。菖蒲湯、柚子湯など季節の風呂も行っている。家族会で馴染みの温泉地へ年2回出かけ貸し切り風呂に入っている。温泉は大好評でとても喜ばれている。湯船やシャワーを拒む方には清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息ができるよう暖房や静けさに配慮している。昼寝は、茶の間で休む人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、飲み間違いのないよう、名前と日付を確認して飲むこと、また利用者の症状の変化の確認に努め医師との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会、会食会、運動会、善光寺参り、温泉旅行、クリスマス会、花見等たくさん実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への外出は、日々の散歩や四季折々の自然に触れる機会をたくさん作り、家族や隣近所の皆さん、ボランティアとの外出支援を実施している。	天気がよければホームの周辺を散歩したりホームの池のある庭で日向ぼっこを楽しむこともある。行事外出はドライブがてら近隣市町村の公園や名所に出かけている。家族会で高原や温泉に出かけたり、養成講座のボランティアの手を借りて善光寺参りや公園、菊花展などに出かけ季節の移り変わりを楽しんでいる。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送った。家族からの年賀状も届く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のより共同空間になるように工夫し努力している。	居間は増築され20畳と広々し明るい。入居者はソファや椅子に掛けてお茶飲みをしたりボランティアの訪問を受けている。リビングに移動して職員と一緒に食事の準備を行う方もいる。廊下には絵手紙ボランティアの作品が彩りよくあちこちに飾られホールにはお雛様も飾られている。縁側も広く、入居者は好きな場所で思い思いに過ごしている。玄関にはクンシランが見事な花を付けて来訪者を迎えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い廊下は共同空間のひとつだ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、使い慣れたものを持ってきていただいている。	フローリングの居室にベッドを置き、自宅から持ってきた掛け軸や衣装ケース、沢山の洋服、家族写真なども置き、一人ひとりに合わせた居室となっている。他の場所より寒さを感じる居室については朝夕や着替えの時にヒーターを点け室温を調整している。各居室とも明るく清潔で気持ちよく生活している様子が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには、自立して移動できる工夫をしている。		